

編集 後記

今回の10月号の原著論文は高齢者を研究の対象としたものが多く見られました。私も最近高齢者の在宅医療や介護に関して、費用と効果の両者の概念を組み込んだ臨床経済的研究を行っています。特に費用サイドとしては家族の介護等に要する間接費用に、また効果サイドとしては患者の効用値の測定に関心を持っています。後者の測定には、Time Trade-off, Standard Gamble等の手法が開発されていて、学問的には「現在の健康状態で10年生きると、完全な健康状態で5年生きるとでは、どちらがよいですか?」、「賭けに勝ったら完全な健康状態になれるが、負けると死にます。勝てる確率が50%だったらこの賭けをしますか?」などと被験者に尋ねるものです。しかし、死期に近い健康状態の悪い高齢者にこのような質問を行うことは、容易ではありません。場合によっては倫理的な問題が生じるかもしれません。患者との信頼関係が十分築けている面接者が慎重に行わないとできない調査です。これは学問をそのまま医療や福祉の現場に直接導入することが困難な例であると思います。また、この調査の中で、最初の質問に対して「もう1年も行きたくない。直ぐに死にたい」と回答するケースや、若いころ賭け事が好きだった人は勝てる確率がほとんど0でも賭けを行ってしまう場合もありました。研究を通りして思わぬその人の生き様に触れることもできました。

研究歴の短い私が、高齢者と聞いて最近の研究の中で感じたことを書いてみました。

(大久保一郎)

次号予告

論壇

国際保健戦略における政治性から経済性重視への政策転換に関する考察

.....湯浅資之, 他

短報

地域住民における Body Mass Index と高血圧, 糖尿病, 高コレステロール血症発症に関する追跡研究.....山岸良匡, 他

資料

「たばこ規制枠組み条約」の成立過程と今後の運用方向性.....臼田 寛, 他

単包虫症—わが国における患者発生動向と対策.....土井陸雄, 他

特別論文

公衆衛生研究における「疫学研究に関する倫理指針」の適用.....岡本悦司, 他

武見太郎記念国際シンポジウム

Human Security and Health 安全保障の視点から—人類の生存秩序と健康

日 時：平成15年12月13日(土)9：30～17：30

会 場：東京国際フォーラム ホールC 東京都千代田区丸の内3-5-1

主 催：武見太郎記念国際シンポジウム実行委員会

後 援：日本医師会, 厚生労働省, 外務省, アメリカ大使館, 東京都, ハーバード大学公衆衛生大学院

参加費：先着1000名 入場無料 (但し事前申込が必要です)

プログラム概要：〈同時通訳付〉

【第一部 Human Security の理論と実践】

山本 正 (日本国際交流センター理事長), アマルティア・セン (ケンブリッジ大学学長), 緒方貞子 (国際協力機構 (JICA) 理事長), リンカーン・チェン (ハーバード大学教授)

【第二部 よりよき生存とは? 武見太郎の今日的意義】

武見敬三 (参議院議員), マイケル・ライシュ (ハーバード大学教授), エズラ・ヴォーゲル (ハーバード大学名誉教授), 尾身茂 (WHO 西太平洋地域事務局長)

【第三部 伝統医療とよりよき生存】

川口雄次 (WHO 健康開発総合研究センター所長), 寺澤捷年 (富山医科薬科大学副学長), チェン・ケン (サウスパシフィック WHO 代表), 丸山征郎 (鹿児島大学医学部教授)

申込方法:

FAX・E メールにて下記事項記載の上, 事務局まで申してください。受付後参加票を発送。氏名 (ふりがな)・所属・参加票郵送先・電話・参加希望が複数名の場合は全員の氏名 武見太郎記念国際シンポジウム事務局

〒100-0005 千代田区丸の内3-5-1 東京国際フォーラム D301 T/F 03-3201-3300

E-mail takemisymp-office@umin.ac.jp URL <http://plaza.umin.ac.jp/takemi/>